

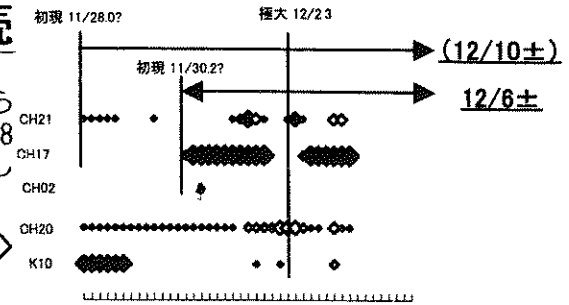
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

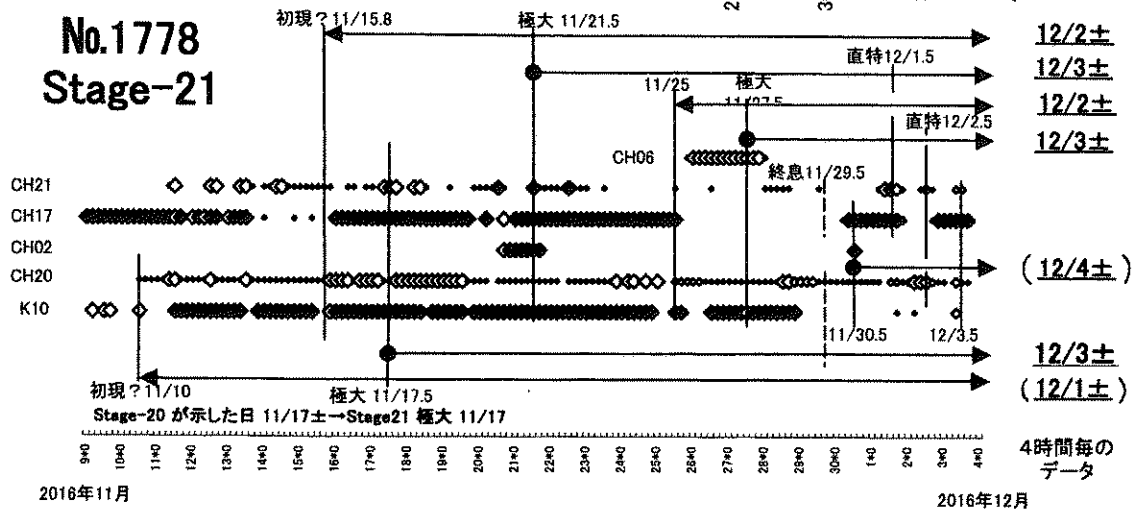
No.1778 長期継続前兆現況報告 12月前兆=直前特異か新規極大か  
CH17前兆2度に渡り出現 CH17のみ現在継続

No.1778長期継続前兆第21万-万は、12月02日±を示す認識でした。11/30 未明から出現したCH17特異前兆は、12/1の夜20時頃に終息致しました。しかし12/2の夕刻18時頃より再び出現したため、このCH17の動向を確認するまで情報は書けませんでした。前兆が継続出現しているため、対応地震が発生する筈はありませんが、最近の前兆の動向解釈が難しく、変化を観測していたため、続報が一日あきましたこと、お詫び申し上げます。

※右図は12月に入ってから前兆変化別解釈。第21万-万が示した12/2に極大認識。初現の可能性は2ヶ所有、今後さらに極大出現の可能性も否定困難。



No.1778 Stage-21



CH17の糸状特異を主とした最近の前兆出現状況を既報告のとおり、直前特異の可能性と認識した場合は、12/2又は12/3を示す結果となっていることは既に報告済です。

12/2以降のCH17特異等は11/30のピークに対する直前特異と考えますと、12/4±を示しますが、これは不明です。

そこで、最近の前兆部分のみ、直前特異ではない可能性として、別解釈を試みた図が右上端の図です。第21万-万が示した、12月02日に極大がある認識です。初現の可能性は、考えやすいのは、CH17の初現=11/30.2です。この場合、12/2.3極大に対応させますと、12/6±が示されます。次に可能性は少々考えにくいですが、CH21に微弱前兆が継続した11/28.0を初現とした場合は、右上図中記のとおり、12/10±が計算されます。

あくまで、第22万-万が出現していない認識では、12/4±が計算できますので、12/6±は発生の可能性が否定できません。また一方、第21万-万が示した12/2に第22万-万極大が出現したと認識した場合には、12/6±2 時期発生の可能性が計算されることとなります。ちなみに、右上端図の12/2.3極大が、第21万-万の最大の極大11/21.5 に対する直前特異と仮定した場合は、12/4±が計算されることとなります。この可能性も否定できません。

本日12/3午後16時現在、CH21=完全静穏。CH20=極めて微弱。CH17=糸状特異継続中。と云う観測状況です。今後CH17特異が数日継続する場合は再考致します。

No.1778は最初の頃は東北圏と近畿中部の二つの推定領域が考えられました。その後、PHP新書に記したとおり近畿中部の可能性が考えやすい状況となっています。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域  
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域  
※岐阜県～福井県（石川県南部と滋賀県北部含む）

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：前兆が完全終息したのち発生日計算  
現状早い場合の可能性日=12月6日±2  
(12月4日～12月8日期間)  
(12月07日時点で前兆継続の場合は再考し続報予定)

◇推定地震種：震源深さ30km以浅の日本列島地殻地震

◇推定発生日時刻：午前9時±1（又は午後6時±3）  
(前震発生の場合は無効)

